

# 平成22年度の久良岐能舞台主催事業ご案内

横浜市能楽堂久良岐能舞台

開催時期	事業名	事業内容
4月11日 (日)	千年を超える世界最古の合奏音楽 「雅楽の楽しみ」	雅楽は平安時代中期には今日の形に完成。日本古来の歌と舞、古代アジア大陸から伝来した器楽と舞などが日本化して成立しました。宮廷に伝わる雅の世界を堪能して下さい。 出演 雅楽道友会 解説 東儀俊美 参加料 3,500円
5月9日 (日)	日本の伝統芸能に親しむ 地歌舞の魅力 「山村楽千代 舞二十番への道」	上方舞(京舞)は能の動きを取り入れた内省的な舞です。 上方舞の名手であった故山村楽正の芸を継承する山村楽千代が、地歌舞の名作を舞います。日本舞踊との対比をお楽しみ下さい。 舞 山村楽千代 地歌 藤井泰和 日本舞踊 おどりの空間 構成・演出と解説 舞踊家 村尚也 参加料 3,500円
6月13日 (日)	日本の伝統芸能に親しむ 「女流義太夫を聴く会」	女流義太夫の世界の頂点に立つ人間国宝 竹本駒之助の義太夫に親しむ会です。 義太夫 竹本駒之助(人間国宝)・竹本越孝 三味線 鶴澤津賀寿・鶴澤寛也 解説 日本舞踊家 村尚也 参加料 3,500円
7月22日 7月23日 7月25日 (木・金・日)	「能楽囃子の楽しみ」 囃子体験講座と発表会+コンサート [後援事業]	能の大切な要素、囃子について音楽の構造を学び、4種類の楽器を二日間にわたって集中的に体験する、やや詳しい内容のワークショップです。25日には講師と共に体験の成果を舞台上で発表します。最後にはシテ方と囃子方による様々な演奏を楽しみます。 参加料 講座 1日 3,000円 2日 5,000円 コンサート 3,500円
8月21日 (土)	再・アジアの音色 「魅惑のインド音楽」 ～サーランギとタブラー～	インド音楽界で頭角を現しつつある二人の伝統音楽奏者による演奏でスピリチュアルで魅力的なインド音楽を聴くコンサートです。 サーランギ:ラケーシュ・ミシュラ タブラー:パンカジュ・ミシュラ ナビゲーター:うえの善巳(フルート奏者) 参加料 3,500円
9月4日 (土)	「所蔵能装束公開展示と能面作品展」 (展示+講演)	滅多に見ることができない能装束と能面に真近に接する機会です。 今年の展示テーマは「二番目物(修羅能)」です。 能面作品展は若手能面師のトップを行く俊才 新井達矢です。 講演 装束 堂本朋子(当館館長・能装束製作者) 能面 新井達矢 参加料 1,500円
10月16日 10月17日 (土・日)	「第4回久良岐まつり」	4回目を迎え、ますます盛大に開催します。安価な料金で伝統芸能がおもいきり楽しめる行事です。 16日 庭園行事と能舞台行事:狂言・舞囃子公演 17日 庭園行事と能舞台行事:和妻(伝統手品)・津軽三味線公演 参加料 1,500円
10月26日 10月27日 10月28日 (火・水・木)	「小学校向け狂言鑑賞教室」	㈱シグマコミュニケーションズの社会貢献事業として実施されます。 磯子・港南・南の3区の公立小学校を招待して6年生の教科書に出ている狂言を鑑賞します。 一般の方の参加はできません。 出演:大蔵流狂言方 善竹富太郎・善竹大二郎
11月28日 (日)	「能舞台に魅せられたミュージシャン達」	横笛奏者として活躍中の松尾慧が、ペダルスチールギター、女性ボーカリスト、ギター奏者と久良岐能舞台上で出逢い、響きあう楽しい舞台。 能管・横笛 松尾 慧 ボーカル sachiko ペダルスチールギター 駒澤裕城 ギター 佐藤克彦 参加料 3,500円
12月12日 (日)	あなたが能舞台に立つ日 第14回 「能楽ワークショップ・井筒」	1月の能と狂言を知る会に先立ち、能「井筒」の特徴、演出などをやや詳しく学ぶワークショップです。事前に演目の理解を深め、舞や謡の体験をすれば、鑑賞が更に楽しいものになります。 講師 法政大学能楽研究所教授 山中玲子 シテ方観世流能楽師 武田尚浩 参加料 2,500円
23年1月30日 (日)	あなたが能舞台に立つ日 第15回 「能と狂言を知る会・井筒」	最初に上演内容について分りやすい解説があり、能の鑑賞の初心者にも楽しめる番組構成です。 能「井筒」観世流能楽師 武田尚浩・他 狂言 未定 解説 法政大学能楽研究所教授 山中玲子 参加料 5,000円
23年3月13日 (日)	日本の伝統芸能に親しむ 第3回久良岐狂言会 「深田博治 狂言会」	定例狂言公演です。始めに上演番組の丁寧な解説を聴いた後、三番立ての狂言を鑑賞します。次世代の狂言界を担う実力派狂言師による本格的な狂言会をお楽しみ下さい。 出演 シテ方 和泉流 深田博治・他 解説 (未定) 参加料 3,500円

※この他にも共催事業や後援事業が追加される場合がございます。久良岐能舞台のホームページ、横浜市報区版、横浜市芸術文化振興財団発行「ヨコハマ・マートナビ」、新聞掲載文化事業案内などに案内を掲載します。